

“本のまち” × “やさしいまち”

読書バリアフリーのまちづくり
～明石市長の新たな挑戦～

1



明石市長 泉 房穂

- 一 はじめに
- 二 「本のまち」明石へ
- 三 手を伸ばせば本に届くまち
- 四 本のまちで市民満足度向上
- 五 やさしい社会を明石から
- 六 読書バリアフリーの取り組み



一 はじめに

自己紹介

泉 房穂 (いずみ ふさほ)

- ➡ 1963年 明石生まれ
- ➡ 弁護士
- ➡ 社会福祉士
- ➡ 元衆議院議員 超党派での議員立法制定に奔走
- ➡ 元NHKディレクター
- ➡ 2011年より明石市長(現在2期目)
- ➡ 柔道3段、手話検定2級、明石タコ検定初代達人



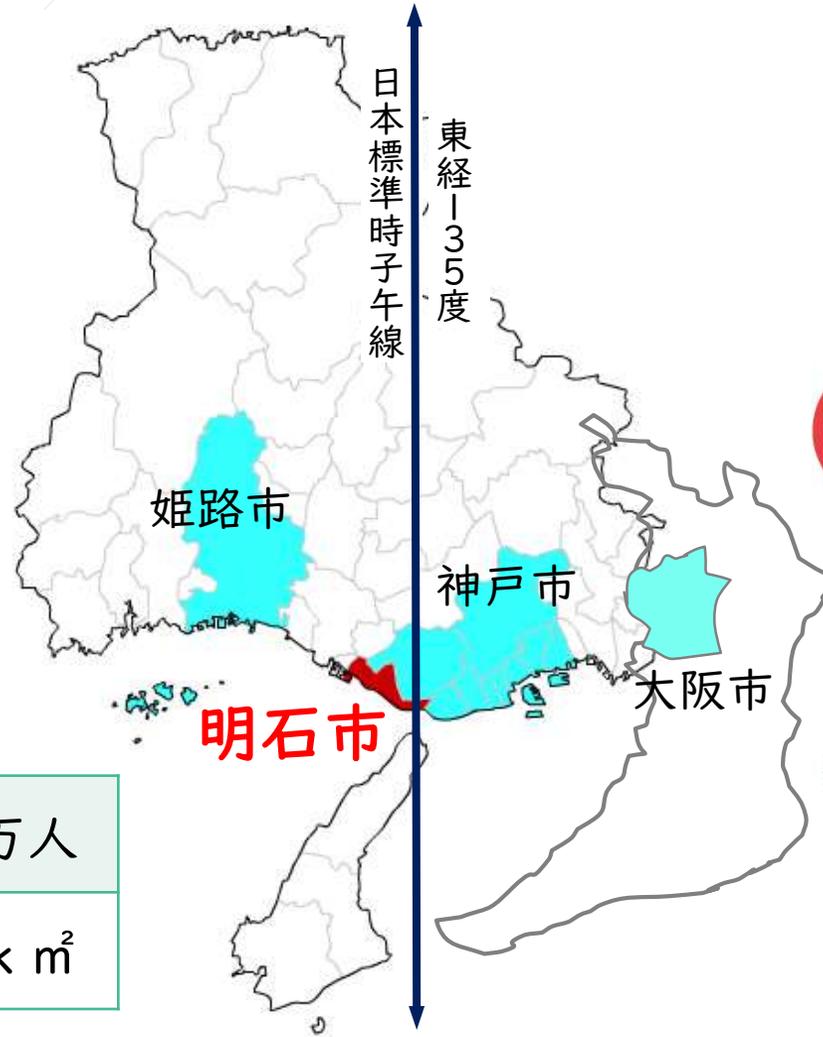
はじめに

明石市の紹介



人口 約30万人

面積 約50 km²



歴史の
まち



時の
まち



海の
まち



はじめに 明石市の紹介

5



2019年11月23・24日
みんなで作る
やさしいB-1

2016年 優勝

2017年
やさしいB-1
西日本大会 開催



ニ 「本のまち」明石へ

2016年1月明石市のトリプルスリー（地方創生総合戦略の目標）



ニ 「本のまち」明石へ 市長としての思い



「いつでも」

「どこでも」

「だれでも」

手を伸ばせば本に届くまち



ニ 「本のまち」明石へ 市長としての思い



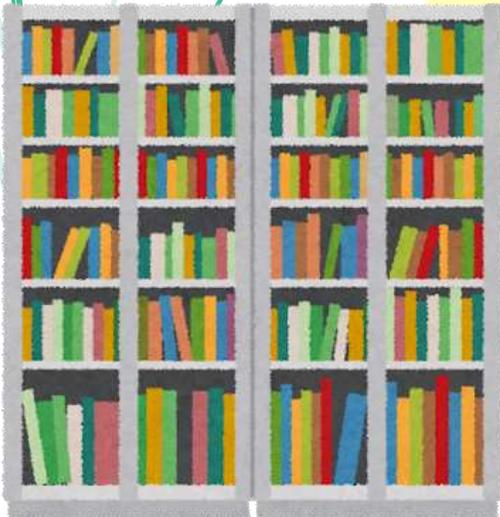
- 本はやさしさ、勇気
- お金がないときこそ公が本を買う
- 図書館が「自分の本棚」



二 「本のまち」明石へ 市長としての思い



- 本は「お金が余ったらやる」端っこのテーマではない
- 本はまちづくりのど真ん中のテーマ



二 「本のまち」明石へ 本関連予算を大幅に増額

市長就任

2011年

3億4200万円

2019年

4億4200万円



三 手を伸ばせば本に届くまち 赤ちゃんのときから本と仲良し

ブックスタート

4か月児健診の受診時に

読み聞かせ体験と絵本2冊をプレゼント



ブックセカンド

3歳6か月児健診の受診時に

読み聞かせのアドバイスと絵本1冊をプレゼント



親と子の
“愛情の時間”も
プレゼント

三 手を伸ばせば本に届くまち

絵本保育士の養成 全国初

乳幼児の豊かで伸びやかな育ちを支えるため、市内の幼稚園・保育園の先生が絵本選びや読み聞かせのポイントなどを学ぶ、明石市オリジナルの資格制度



NEW ブックリスト



TOPICS

「どんな本を読んであげたらいいかわからない」という声に応えて司

書おススメの本をまとめました。ブックスタート・セカンド時にお渡ししています。



三 手を伸ばせば本に届くまち 子どもに伝えたい「本」感動大賞

お気に入りの一冊を、文章やイラストを使って紹介したオリジナルの「本の帯」と、読み聞かせを聞いた幼児の読書感想画「一枚の絵」を募集



	本の帯 (小学生以上)	一枚の絵 (4・5歳児)	計 (点)
2013年度	719	324	1,043
2014年度	846	243	1,089
2015年度	1,474	753	2,227
2016年度	1,823	1,131	2,954
2017年度	1,853	1,313	3,166
2018年度	1,820	1,527	3,347

三 手を伸ばせば本に届くまち 市の施策との連携

- ・ 図書館やジュンク堂書店で、里親、こども食堂など、市の施策テーマに合わせた展示やイベントを実施
- ・ オリジナルブックカバーやしおりを作成して市民啓発



里親100%
プロジェクト
のしおり

2019年10月13日（日） 神戸新聞

明石市は国が定める「里親月間」の10月に、市内の28小学校区すべてに里親家庭があることを目指す「あかし里親100%プロジェクト」のPRに力を入れている。市内の書店や図書館で配布している。（小西隆久）

ブックカバーで 里親登録を訴え

市は、市内で里親を必要とする未就学児の里親委託率100%を目指す。28小学校区に各1冊以上の登録を目標としている。現在、18小学校区に計組が登録しており、月間に合わせて登録を促進したい考えだ。

ブックカバーは文庫本用と洋行本用の2種類。家庭のぬくもりを表現した黄色を基調に、家族をイメージした白いハート型をデザイン。「すべての子どもに家庭のぬくもりを」とのキャッチフレーズは、里親を必要とする子どもの現状について説明を添え、あかし里親センターの連絡先も記した。計8千枚作製し、ジュンク堂書店明石店を市内4カ所で作成している。しおりもカバーと同様のデザインで、あかし市民図書館や各子育て支援センター16カ所などで配布し、計7800枚作製した。

ポランティア里親入門講座や相談会、啓発パネル展も

市内28小学校区 委託率100%目指し
図書館や書店で8千枚配布

「あかし里親100%プロジェクト」をPRするブックカバーとあり、明石市大朝石町1-3-1ジュンク堂書店明石店

里親制度がの panels 展は12月20日、あかし市民図書館で、目をPRする。あかし市で、横断幕も里親委託率がある。里親相談会予約センターでも、明石でも30日に明石11もセンター 8・0118・550022

1（天久保町のき通）として、親の急病などによる日回程度、子どもを預かるショートステイ里親」の相談会1回も24日、あかし保健所（同）で開く。



あかし市民図書館でのパネル展示と書籍紹介

三 手を伸ばせば本に届くまち

移動図書館車2台で市内78か所 に本をお届け

県内唯一の
2台体制

大型車 “めぐりん” と 小型車 “くるりん”

- ・ 保育所、幼稚園、こども食堂、放課後児童クラブ、高齢者施設、病院など市内すみずみまで巡回
- ・ めぐりんは、電動リフト付きで車いすや足の不自由な方も利用可能
- ・ 絵本も充実！子どもでも選びやすい書架に



イラストは
明石たこ大使
さかなクンの
描きおろし



三 手を伸ばせば本に届くまち

移動図書館車のお披露目には
さかなクンも登場



三 手を伸ばせば本に届くまち

学校図書室との連携



学校司書が身近な存在に

全小・中学校に 学校司書を配置

より多くの児童・生徒が本に親しむことができるように、今年度から市内すべての市立小・中学校に学校司書を配置。本に親しみやすい環境を整えています。

司書の活動

- ・ 図書室での展示や図書の紹介
- ・ 図書室の本を授業に活用
- ・ 本の相談対応
- ・ 読み聞かせ など

—参考（司書配置校数とその貸出冊数）—

	配置校数等	配置校での合計貸出冊数
2017年度	8校（3名）	88,390冊 〔前年度比+26%（前年度70,225冊）〕
2018年度	24校（8名）	256,089冊 〔前年度比+19%（前年度215,324冊）〕
2019年度	全41校（14名）	



2019年度は全中学校で
ビブリオバトル実施

三 手を伸ばせば本に届くまち

学校図書室との連携



ニュースで話題の
関連図書を展示



新着本を展示し紹介



新着本の帯を図書室前に展示



本の相談対応



学級への本の貸出



司書による読み聞かせ等

三 手を伸ばせば本に届くまち

2016年12月明石駅前に「本のビル」をオープン

明石駅前再開発ビル内に、あかし市民図書館、こども図書室、大型民間書店をオープンし、本のまちづくりの拠点に



当初案

127億円

市役所窓口	
市民広場 ジュンク堂書店	

再開発事業に対する
市負担

△23億円

公共施設の見直しによる
市民負担の軽減
(国の補助金の増額)



104億円

変更後

6F	あかし総合窓口 こども健康センター
5F	あかし子育て 支援センター
4F	あかし市民図書館
2F	あかし市民広場 ジュンク堂書店



三 手を伸ばせば本に届くまち

2017年1月「あかし市民図書館」オープン



新図書館は以前に比べ...

一般書エリア
広さ約**4倍**



座席約**3倍**



四 本のまちで市民満足度向上 まちの好循環が加速



住む人(定住人口)
6年連続増加!

出生数 4年連続増加!



地域経済の活性化
来る人(交流人口)
7割増加!



市税収入 6年連続増加
個人市民税
固定資産税
都市計画税

四 本のまちで市民満足度向上 2019年トリプルスリーの達成状況

目標その①
人口**30**万人



目標その②
出生数**3,000**人/年

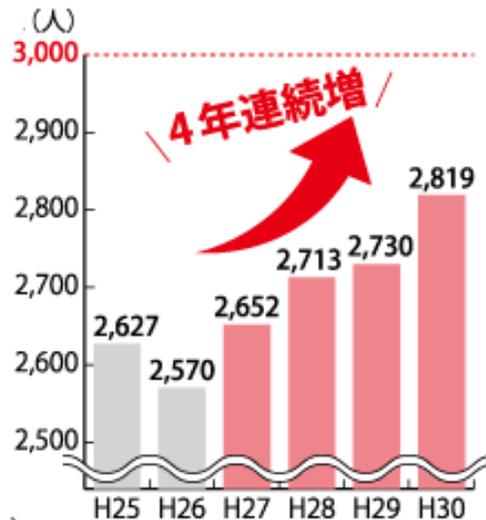


合計特殊出生率

1人の女性が一生の間に何人の子を産むか

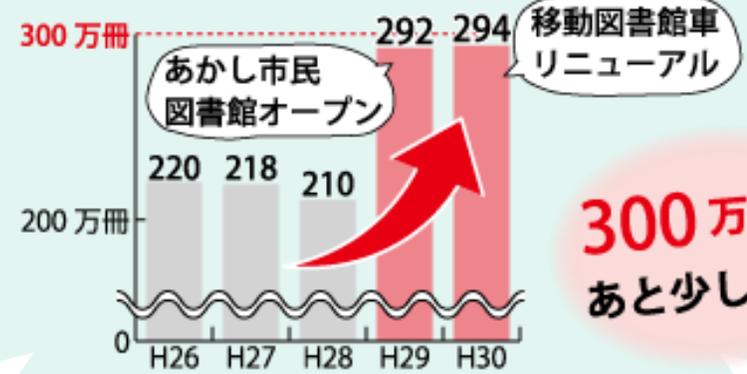
市	県	国
1.64	1.44	1.42

(厚生労働省人口動態調査より
国・県=2018年、市=2017年)



目標その③
本の貸出冊数**300**万冊/年

図書館や学校などで貸し出された冊数



300万冊まであと少し！

目標の300万冊まであともう少しよ！



四 本のまちで市民満足度向上

市民満足度 が大きく向上!



まちづくり市民意識調査

明石が**好き**



住みやすい



「明石のまちに
愛着を感じる」と
回答した人の割合

2019年

90.8%

2014年

80.6%



「住んでいる地域が
住みやすい」と
回答した人の割合

2019年

91.2%

2014年

83.0%

四 本のまちで市民満足度向上

※こんなところが
評価されています

市民満足度 が大きく向上！



こどもを核としたまちづくり

すべての人に「やさしい」まちづくり

1位 子育て環境の充実

- 中学生以下の医療費無料
- 保育料第2子以降無料
- 公共施設の入場料無料



2位 本のまちの推進

- あかし市民図書館
- 2台体制での移動図書館車



3位 良好な都市環境の整備

- 明石駅前再開発



五 やさしい社会を明石から こどものころからの変わらぬ思い

私には階段が必要だ。
なぜなら私は鳥のように飛べないからだ。

「お金がないから」「スペースがないから」という理由で
階段は作れません、と言われたら困ってしまう。

車椅子で移動する人にはスロープやエレベーターが必要だ。
なぜなら歩けないからだ。

階段がないビルや駅はないが、スロープやエレベーターは、
お金やスペースがないからという理由が通る。

多数派に合わせておけば足りるのがあたりまえの社会。

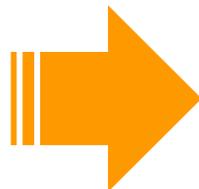
その「あたりまえ」を変えたい。

そう思って、私は政治家を志した。

五 やさしい社会を明石から

障害者支援 5つのポイント

- 1 支援の 対象 ▷ 必要とするすべての人に
- 2 支援の 視点 ▷ その人が
- 3 支援の 内容 ▷ 必要としている支援を
- 4 支援の 場 ▷ その地域で
- 5 支援の 責任 ▷ 行政の責任において



五 やさしい社会を明石から

SDGs
インクルーシブ

先導的共生社会ホストタウン

STEP 5 誰もが暮らしやすい
“やさしい”まちへ

STEP 4 合理的配慮への公的助成

STEP 3 障害者差別解消条例の制定

STEP 2 多様なコミュニケーションの促進

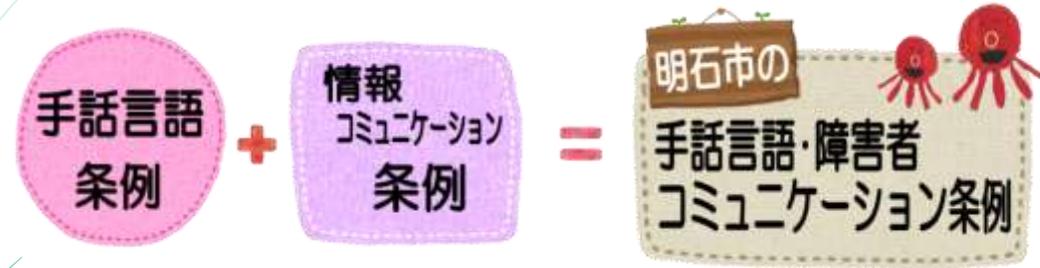
STEP 1 手話言語の確立



五 やさしい社会を明石から

手話言語・障害者コミュニケーション条例

全国初



小学校での手話教室

障害者配慮条例

- 障害者差別解消法に合わせ
2016.4.1施行
- 特徴は

合理的配慮の促進

見える優しさ次々と

明石市「障害者配慮条例」施行から半月



車いすも出入しやすいよう、市の助成を受けて導入した簡易スロープ
＝明石市町の「あまの本店」

助成制度は、市民や事業者が過度な負担を理由に障害者への「配慮」を断念しないよう応援する目的で設けた。飲食店の点字メニューや「コミュニケーションボード」製作費（上限5万円）、マシナードや折りたたみ式簡易スロープなどを物販購入費（同10万円）▽簡易スロープや手すりなど工事施工費（同20万円）といった助成を受ける

簡易スロープ設置など

段差があり、スロープは書害だけでなく、ベビーカーを通れた店からも好評だという。取締役の森本眞一（55）は「後回しにしてしまっていたが、市の方と一踏んぱたみ、短い期間で導入できた。地元で構っている店づくりを心掛けていこう、障害者の方も安心してもらえるきっかけになれば」と話す。

明石市が今月1日施行した「障害者に対する配慮を促進し誰もが安心して暮らせる共生のまちづくり条例」に基づき、市の助成を受けて段階解消の簡易スロープや点字メニューなどに取り組んだ民間事業者が、14日時点で早くも6事業者（助成件数10件）にまで広がった。市が記者会見を開いた。他にも8事業者（11件）が申請中で、奥野副市長は「具体的な形で、さらに優しさが見えてきた。行政として責任を持って後押しを続けたい」と話す。

【駒崎秀樹】

助成で民間業者後押し

14日現在で実施されたのは点字メニュー6件、簡易スロープ1件、筆談ボード1件。条例制定に向けた検討委参加した民間事業者を通じて広がったという。

同市本町の洋菓子店「あまの本店」では、簡易スロープ、点字メニュー、筆談ボードを併せて導入した。入り口は段差

五 やさしい社会を明石から

合理的配慮の提供を支援する助成制度

全国初

みんなで合理的配慮の提供を促進・拡充するため、行政が費用を助成

- ・ 制度を利用できる団体
 - ① 商業者など 民間事業者
 - ② 自治会など 地域団体
 - ③ サークルなど 民間団体

コミュニケーションツールの作成

- ・ 点字メニュー
- ・ チラシの音訳
- ・ コミュニケーションボード など

上限額

5万円



物品の購入

- ・ 折りたたみ式
スロープ
- ・ 筆談ボード など



上限額

10万円

工事の施工

- ・ 簡易スロープ、
手すり等の工事の
施工費用



上限額

20万円

五 やさしい社会を明石から まちの風景が変わる



まちなかの飲食店
(筆談ボード)



市役所
(テレビ電話システム)



観光案内所
(タブレットを使った遠隔手話通訳)



明石市総合福祉センター新館
(2019年5月オープン)



お店の出入口
(簡易スロープ)

五 やさしい社会を明石から 明石市のこども総合支援

- ① **児童相談所**の新設 法改正後初
- ② **こども食堂**を全小学校区で開設 全国初
- ③ **里親100%**プロジェクト 全国初
- ④ 離婚前後の**こども養育支援** 全国初
- ⑤ 児童扶養手当の**毎月支給** 全国初
- ⑥ **無戸籍者**支援 全国初



五 やさしい社会を明石から すべての市民のためのセーフティネット施策

犯罪被害者支援

総合支援条例

明石市犯罪被害者等の支援に関する条例

全国初



江川 紹子 氏
あかし更生支援フェアにて

更生支援

- ・更生支援ネットワーク会議の創設
- ・あかし更生支援フェアの開催
- ・更生支援及び再犯防止に関する条例の制定

全国初

全国初



あかし更生支援フェア

六 読書バリアフリーの取り組み



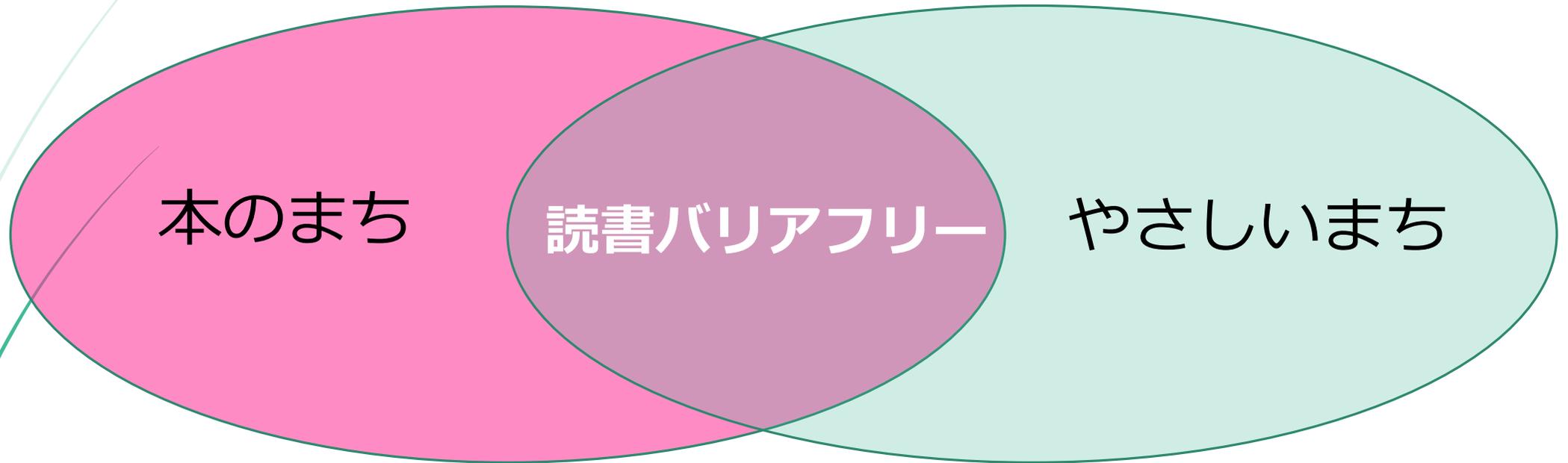
2018年4月 「マラケシュ条約」 締結

2019年1月 「マラケシュ条約」 国内発効

2018年5月 「著作権法」 改正

2019年6月 「読書バリアフリー法」 制定

六 読書バリアフリーの取り組み



明石市のまちづくりの基本理念2つが重なる部分が
「読書バリアフリー」

六 読書バリアフリーの取り組み



大きな文字で本を読みたいな

大活字本

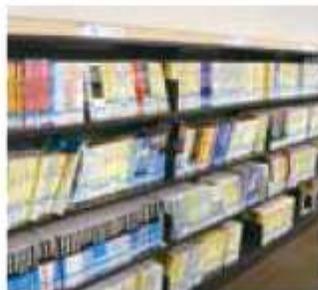
通常の単行本より、大きな文字の本です。文字の大きさだけではなく、行間にも配慮。時代小説や話題書、エッセイなど約2000冊の本を楽しめます。

単行本の文字

晴れです。
今日の天気は

大活字本の文字

晴れ
今日



拡大読書器

読書台に読みたい本を設置するだけで、拡大表示ができます。



文字の大きさや、背景の色も変えられます

六 読書バリアフリーの取り組み



読み上げてくれると助かるな

ユニバーサル

音声デイジー

活字による読書が困難な人のためにつくられた録音図書です。



読み上げ機

印刷物を読み取り、音声で読み上げます。本だけでなく、新聞や雑誌なども読み上げることができます。



拡大読書器とつなげれば
画面と同期した
読み上げも可能

- ➡ サピエ図書館・国立国会図書館のデータをダウンロードして活用することができます

六 読書バリアフリーの取り組み



点字の本はあるかな

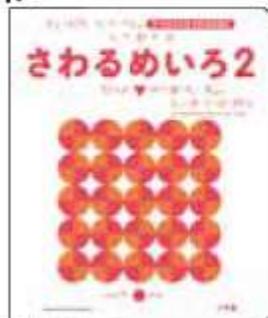
点字本

ユニバーサル

※一部例外あり

一般書や児童書など、約850タイトルの点字本を貸し出しています。点字新聞や、点字版の広報あかし、点字やでこぼこのついた絵本なども読めます。

点字新聞や
触って遊べる絵本など



村山純子
「さわるめいろ2」小学館



TOPICS

手作りの布の絵本の良さを知ってほしい

絵本の会タッチ

小さな子どもも安全に楽しめる手作りの布の絵本やおもちゃを貸し出す活動をしています。優しい手触りで、子どもたちに大人気。

ふわふわ柔らかく
かわいい布の絵本



布の絵本講習会

六 読書バリアフリーの取り組み

図書館に行くのが難しいな



移動図書館車

県内唯一の2台体制で、保育所や幼稚園、高齢者施設や病院など、市内すみずみまで本を運びます。積んでいる本は、児童書から一般書までさまざま。ぜひご利用ください。



巡回日程は
こちらから



一般書もOK

宅配サービス

ユニバーサル

市内在住で、障害者手帳2級以上の人や、来館が難しい65歳以上の人などに、図書を自宅までお届けします。登録・貸し出し・返却のすべてを自宅で行えます。

録音・点字図書の

郵送サービス

ユニバーサル

市内在住で、障害者手帳2級以上(視覚障害)の人に、図書を自宅まで郵送します。



六 読書バリアフリーの取り組み

聴覚障害者の対応



手話通訳者がいます



市役所の手話通訳者が
遠隔通訳



6F	あかし総合窓口 こども健康センター
5F	あかし子育て 支援センター
4F	あかし市民図書館
2F	あかし市民広場 ジュンク堂書店

6Fの総合窓口にいる
手話通訳者も対応可能

六 読書バリアフリーの取り組み

聴覚障害者の対応



筆談ボードを使って
質問に対応



大型書店のレジでも
筆談対応OK



六 読書バリアフリーの取り組み

さらに使いやすい図書館をめざして



館内にユニバーサル
ルームを設置



あかし市民図書館
館長とユニバーサル担当職員のみなさん

六 読書バリアフリーの取り組み

市職員「読書バリアフリー」研修を開催

2019年8月26日

筑波大学附属視覚特別支援学校

宇野和博先生による市職員研修を実施



市長、副市長をはじめ、政策室、本のまち、障害福祉、教育委員会、学校司書、図書館等の職員が「マラケシュ条約」「読書バリアフリー法」とその効果、自治体と公立図書館ができること等について学びました

六 読書バリアフリーの取り組み

「手話で絵本の読み聞かせ」イベントを開催

あかし市民図書館内研修スペースにおいて
明石ろうあ協会主催で開催



六 読書バリアフリーの取り組み

視覚障害者向け ユニバーサルサービス体験教室を開催

- ・あかし市民図書館、ユニバーサルサービスの紹介
- ・対面朗読の体験
- ・読書支援機器体験
- ・館内見学
- ・ユニバーサル登録手続き



六 読書バリアフリーの取り組み

「あかしインクルーシブ条例」の制定へ

(2018年から検討会を開催)

全国初

- 国連の障害者権利条約
- 国際社会の共通目標 SDG s (持続可能な開発目標)

の理念に基づき、
障害の有無、年齢、性別などに関係なく、
みんながいきいきと暮らせる誰一人置き去りにしない
まちづくりの推進



六 読書バリアフリーの取り組み

「あかし読書バリアフリー条例」制定へ

全国初



・キーワードは「いつでも」「だれでも」「どこでも」

条例を制定する理由

1. 議会の賛成が必要⇒市民に理解
2. 予算をつける根拠になる
3. 市長・担当者が替わっても施策を継続できる

六 読書バリアフリーの取り組み

「あかし読書バリアフリー条例」



対象者を**すべての市民に**

- ・赤ちゃんから高齢者まで
- ・諦めている人にも、もう一度読書の楽しみを
- ・ひきこもり等図書館に出かけにくい人も利用しやすく



六 読書バリアフリーの取り組み



「あかし読書バリアフリー条例」

当事者ととともに**当事者の目線**で利用しやすい環境づくりを

Nothing about us, Without us (私たち抜きで私たちのことを決めないで)

社会モデルの考え方に基づき、施策を具体化



芥川賞作家 上田岳弘さんが 「あかし本のまち大使」に

「あかし本のまち大使」
に任命!



「ニムロッド」
講談社

芥川賞受賞作
人間とは何か



うえだ たかひろ

上田岳弘さん トークショー ファンミーティング&サイン会

② トークショー

地元の明石の魅力や
思い出、本にまつわる
エピソードを語ります。

時間／午後2時～

場所／あかし市民広場

定員／300人

③ ファンミーティング &サイン会

時間／午後3時15分～

場所／あかし市民図書館

定員／30人

※サインは
著書持参の人



講談社 新潮社
「ニムロッド」「異郷の友人」



あかし本のまち大使
上田岳弘さん

江井島小・中学校、明石西
高出身。今年「ニムロッド」
で第160回芥川賞を受賞。

“本のまち” × “やさしいまち”

こどもも 高齢者も 障害者のある人もない人も
すべての人が本に親しみ、読書を楽しめるまちに

